

開館時間＝10時～17時(入館は16時30分まで)
 休館日＝月曜日(ただし9月15日・10月13日・11月3日・11月24日は開館、翌日火曜日休館)・11月11日[火]
 入館料＝一般 1000円 高大生 500円 中学生以下無料
 ※障がい者手帳などをお持ちの方は半額、介添えの方は1名無料。※20名以上の団体は各200円引き。
 [タクシー来館特典] タクシーでご来館の方、タクシー1台につき1名入館無料
 ※当館ご来館の際に当日のタクシー領収書を受付にご提示ください。
 主催＝海の見える杜美術館 後援＝広島県教育委員会、廿日市市教育委員会
 [アクセス情報]
 山陽本線「阿品駅」から無料マイクロバス運行中 詳しくはホームページまたはチラシ中面をご覧ください
 山陽本線「阿品駅」または広島電鉄「広電阿品駅」からタクシーで約13分
 山陽自動車道「大野I.C.」から車で約10分
 図版＝【第I部】高嶋祥光《蜷村活況》1926年(大正15)頃(右隻部分)
 *第I部・第II部で作品がすべて入れ替わります

うみもり
コレクション
一挙公開

2025年 第I部 2025年9月6日[土]～10月26日[日]
 9月6日[土] ▶ 12月21日[日] 第II部 2025年11月1日[土]～12月21日[日]

綺羅ほし

の如く

Shining Like Stars:
Hoshino Gallery
and the History of
Modern Japanese Art

星野画廊が発掘した
近代日本美術史

第I部

風景と花鳥画



海の見える杜美術館
learn from nature and pursue art & culture

第II部
人物画

うみもり
コレクション
一挙公開

綺羅ほし

の如く

Shining Like Stars:
Hoshino Gallery
and the History of
Modern Japanese Art

星野画廊が発掘した
近代日本美術史

2025年 第I部 2025年9月6日[土]～10月26日[日]
 9月6日[土] ▶ 12月21日[日] 第II部 2025年11月1日[土]～12月21日[日]

開館時間＝10時～17時(入館は16時30分まで)
 休館日＝月曜日(ただし9月15日・10月13日・11月3日・11月24日は開館、翌日火曜日休館)・11月11日[火]
 入館料＝一般 1000円 高大生 500円 中学生以下無料
 ※障がい者手帳などをお持ちの方は半額、介添えの方は1名無料。※20名以上の団体は各200円引き。
 [タクシー来館特典] タクシーでご来館の方、タクシー1台につき1名入館無料
 ※当館ご来館の際に当日のタクシー領収書を受付にご提示ください。
 主催＝海の見える杜美術館 後援＝広島県教育委員会、廿日市市教育委員会
 [アクセス情報]
 山陽本線「阿品駅」から無料マイクロバス運行中 詳しくはホームページまたはチラシ中面をご覧ください
 山陽本線「阿品駅」または広島電鉄「広電阿品駅」からタクシーで約13分
 山陽自動車道「大野I.C.」から車で約10分
 図版「第II部」森守明《椅子に坐る子供》1925年(大正15)頃 *第I部・第II部で作品がすべて入れ替わります



海の見える杜美術館
learn from nature and pursue art & culture

第I部では、星野画廊から入ったコレクションのうち、風景や花鳥を主題とした作品をご紹介します。単に美しい自然を美しく描いたというだけではなく、労働する人々や生活に目を向けたり、花や鳥を観察しながらその形状の美しさだけでなく質感の再現や生命感の表現に苦心するなど、画家たちは様々な自然に向き合っていました。

第1章 人々の生活に目を向けて

第1章

近代、特に大正デモクラシーの高まりの中、画家たちは個性を発揮し、自由な表現を試みました。その中でも、社会の本当のありよう、あるいは市井の生活に目を向け、描き出そうとした画家たちがいました。



【第I部】中井吟香《落日に唄う》1924年(大正13)

第2章 名所だからいい、名所じゃないからいい

第2章

近代の画家たちもまた、古の芸術家たちが足を運んだ名所や旧跡に、自ら足を運び、自分の感性で描き出しています。その一方で、近代以前には注目されていなかった名もない景色に価値を見出した画家もいました。



【第I部】小林春樵《静寂》1923年(大正12)

第3章 近代は花鳥に何を託したか

第3章

花鳥というジャンルは、古来おめでたい意味もあって描かれてきましたが、近代以降、そうした意味は薄まり、動物や鳥、花の美しさ、生命感などを映し出すことに主眼がおかれるようになります。細密に筆を重ね質感を表す画家、あるいはその形状を用いて整理された構図と色彩を楽しむ絵画を描く画家、近代の「花鳥」には画家の様々な思惑が託されています。



【第I部】稲垣仲幹《鶏》1919年(大正8)



【第I部】猪原大華《枝》昭和時代初期

綺羅星の如く

Shining Like Stars: Hoshino Gallery and the History of Modern Japanese Art

星野画廊が発掘した近代日本美術史

星野画廊とは、京都東山区の岡崎公園に至る神宮道沿いに店を構える画廊です。画廊を営む星野桂三氏と万美子夫妻は、作者の分からない作品、あるいは評価の定まらない画家の作品であろうと、それが審美眼にかなう心動かす作品であれば拾い上げ、研究し、世に出すという活動を50年以上に渡り行ってきました。そうした夫妻の「発掘」は、近代の日本における画家たちの活動が、個性を活発に発露し、社会の様々な面を映し出す豊かさを持っていたことを世に示し続けてきました。当館は開館以来、近代京都画壇の巨匠・竹内栖鳳とその師弟の作品を収集してきましたが、それ以外の近代日本画コレクションを充実させるに際して、際立った特徴を持つ、魅力的な作品群を探していました。そこで、ある時期に星野画廊の収集してきた作品群を一括して当館に入れることとなり、それらは今では近代を物語る上での当館の重要なコレクションとなっています。このたびの展示では、風景画・花鳥画を中心とする第I部(9月6日～10月26日)と、人物表現を中心とする第II部(11月1日～12月21日)に分け、星野画廊が発掘した近代日本美術史をご紹介します。綺羅星の如く近代の美術界を輝かせた画家たちの作品を、どうぞご覧ください。

*第I部・第II部で作品がすべて入れ替わります



【第II部】岡本大更・松村梅賢合作《金魚》大正時代



【第II部】千種掃雲《曲芸》明治時代末～大正時代

あなたは誰？ 近代の不思議な画題たち

第3章

あなたは誰？ 近代の不思議な画題たち

第I部・第II部ともに有料でご覧くださった方に、次回展のご招待券をプレゼントいたします。受付にて、入館時にお渡ししたチケットをご提示ください。

リピーター特典

第2回はつがいちアートレゾナンススタンプラリー開催中！ 2026年5月31日(日)まで

詳しくは公式WEBサイトをご覧ください。https://www.umam.jp/hatsukaichiartresonance/



無料マイクロバス運行中

開館日のみJR阿品駅と海の見える杜美術館駐車場を往復する無料マイクロバスが運行中です。お気軽にご利用ください。

- 美術館の正面玄関までは、無料のシャトルバス(約5分)、または杜の遊歩道の散策コース(約15分)をご利用ください。
- 乗車定員28名で運行しています。満席時はご容赦ください。
- 天候や道路の混雑等やむを得ない事情により、時刻通り運行できない場合があります。

JR阿品駅 → 海の見える杜美術館	海の見える杜美術館 → JR阿品駅
10:15 → 10:35	11:25 → 11:45
10:50 → 11:10	12:25 → 12:45
11:45 → 12:05	14:20 → 14:40
12:45 → 13:05	15:10 → 15:30
14:40 → 15:00	16:00 → 16:20
15:30 → 15:50	16:40 → 17:00

香水瓶展示室

長年にわたり収集および調査をしてまいりました当館の香水瓶コレクションから、各時代を代表する香水瓶をいつでもご覧いただけます。



《セント・ボトル》SCENT BOTTLE イギリス・パーミンガム1765年頃 エナメル、金属に金メッキ

イベント情報

当館学芸員によるギャラリートーク

9月27日(土)、10月18日(土)、11月8日(土)、12月20日(土) 各日13:30～(45分程度) [会場]海の見える杜美術館 展示室 [参加費]無料(ただし、入館料が必要です) [事前申し込み]不要

美人画研究会・東海大学文明研究所・海の見える杜美術館共催

オンラインシンポジウム「次世代日本画研究フォーラム：星野コレクションの作品を巡って」 詳細は後日ホームページをご覧ください。

第I部 「版画作品に見る樺嶺と栖鳳」

版画を中心に竹内栖鳳とその師の幸野樺嶺の作品をご紹介します。樺嶺は1881年(明治14)から木版画譜を数多く制作し、国内外で高く評価されました。また栖鳳の版画作品は、肉筆画の豊かな表現力や筆さばきを再現した鑑賞性の高い作品が多く見られます。二人の巨匠による個性豊かな作品をお楽しみください。

竹内栖鳳展示室

【第I部】竹内栖鳳 《十二支帖》より「虎図」大正時代以降



第II部 「水墨表現における学習と革新」

栖鳳は青年期、狩野派や中国画などの古画から筆法を学習し、水墨技法の研鑽を積みました。その後1900年(明治33)の渡欧でヨーロッパの絵画を目の当たりにした栖鳳は、水墨表現にも西洋画の表現方法を取り入れ、光と大気、空間の広がりを表していきます。ぼかしや墨の濃淡による特性にその表現の可能性を求めた栖鳳の、卓越した画技をご覧ください。

【第II部】竹内栖鳳 《郊村晚野図》1905年(明治38)頃



第II部では近代に描かれた人物像をご紹介します。女性美を描く美人画や、歴史に主題をとる歴史人物画は近代日本画における主要なジャンルでした。しかし、星野画廊が発掘した作品の中には、そうしたジャンルの枠にとまらない人物表現が多く存在します。そこには、社会の暗い部分に目を向けようとする姿勢、あるいは当時の社会の規範と自我のジレンマなど、画家たちの様々なモチベーションが見て取れます。

第1章 美しい人々

画家たちが個性を発揮し、端正な美人像、妖しい雰囲気醸す女性像など、様々な女性美を表現しました。大人になる前の少女の可愛らしさ、美しさに着目する画家も現れます。さらに、男性の持つ身体の美しさに着目して描いた画家がいたこともご紹介します。



【第II部】甲斐庄楠音《玄治店》昭和時代初期

第2章

労働と家庭 近代社会の肖像



【第II部】岡村宇太郎《字守》昭和時代初期

芸や踊りを披露する女性たち、黄昏れる南蛮人、荒野に佇む僧、水パイプを吸う中近東の女性など、近代においては実に多様な人物像が描かれていました。それらは当時の社会の一面を切り取ったようでもあり、そうした人物に仮託した画家たちの思いの吐露のようにも見受けられます。

明治期以降確立していった近代の家庭像を背景に、画家たちは母親像、そして子供の像を描きました。理想的な子、母のありようと共に、個人的な愛情や葛藤が見える作品もあります。そして家庭という枠の外にいる者たちも、社会に息づいていることを画家たちは作品に描き残しました。

11月1日[土]～12月21日[日]